令和６年度　現職教育　研究主題及び研究構想

１　研究主題

新しい時代に必要となる資質・能力を高める生徒の育成

～課題解決に向けて、主体的で協働的に学ぶ生徒の姿を目指して～

２　主題設定の理由

予測が困難な時代の中で、これからを生きる子供たちに求められるものは、新しい時代に必要となる資質・能力である。社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、仲間とともによりよい社会と幸福な人生となるように自ら作り出していくことが重要である。

子供たちが将来就くことになる職業の在り方については、技術革新等の影響により大きく変化すると予測されている。例えば、子供たちの 65%は将来、今は存在していない職業に就く*1との予測や、今後 10～20 年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い*2などの予測がある。こうした現状を見ても、教育を通じて、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育むだけでは不十分であり、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められると言える。

本校の生徒は、素直に物事を受け入れ、指示を聞いて真面目に取り組むことができるが、疑問に思うことや分からないことを表現できず、曖昧なまま進んでいってしまうことがある。「なぜそう思うのか」「どこに引っ掛かりを感じているのか」を相手に伝わるように表現する力や、仲間の思いを汲み取る力、そして、問いを立て、仲間とともに解決に向かう力を育て、将来に生かせるようにしたいと考えた。

*1 キャシー・デビッドソン氏（ニューヨーク私立大学大学院センター教授）

*2　オズボーン氏（オックスフォード大学准教授）

３　研究の構想

（１）目指す生徒像

○　課題に主体的に向き合って関わり合い、仲間と解決しようとする生徒

○　相手の言葉から思いを汲み取り、相手に伝わる言葉を選んで表現することができる生徒

○　探究学習*3する生徒

*3　探究学習とは、生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく学習活動のこと。自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

（２）目指す授業像

○　生徒が疑問に思うことを投げかけ、言葉を大切にしながら、生徒同士の学び合い*4によって解決に向かう授業

○　生徒が疑問をもち、思考し続ける授業

*4　学び合いとは、生徒たちがどこに引っ掛かりを感じているのかを互いに伝え合い、何が分かればその引っ掛かりを解消できるのかを思考し、一人一人が力を出し合いながら課題解決に向かう姿を指す。分かる生徒が分からない生徒に一方的に説明するようなものではない。

（３）手だて

導入	・生徒が、「解決したい」「取り組んでみたい」と思える学習課題を設定する。 ・生徒の疑問から、学習課題を設定する。
展開	・生徒が、自分たちの力で考え続けることができるような問いを投げかける。 ・生徒の何気ないつぶやきを拾い、全体に広げる。 ・ペア活動やグループ活動を取り入れ、学び合いの場を設定する。 ・教師はファシリテーターとしての役割*5を果たす。 ・言葉に意識が向く*6ようにする。 ・教師は知識を与えるのではなく、生徒の気付きがあったときに、情報を提供する。
まとめ	・授業内容を振り返る時間を設ける。 ・生徒自身でまとめを行う。（発表する、振り返りシートに記入する等）
その他 （授業準備 学級経営）	・各教科で育成したい力を明確にし、評価の観点を意識した授業づくりをする。 ・生徒の実態に合う教材を用意する。 ・日頃から、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング、グループワークを行い、生徒同士のよりよい関係を構築する。

*5　曖昧な言葉が明確になるように問い返したり、話が脱線・混乱したときに話を戻したりして、生徒が同じ方向を向いて課題解決に向かえるようにする。

*6　「どういう意味で○○と言ったの？」「○○という書き方とどう違うの？」「（言葉や文章、絵など）どこからそう思ったの？」「どこからそれが分かる？」「一言で言うと？つまり？」などと切り返し、生徒が言葉に意識を向けて、相手の思いを汲み取ったり、相手に的確に伝えたりする力を付ける。

（４）研究の推進に向けて

○　どの授業でも、同じスタイルで学び合いができるように、「南中スタイル」の定着を図る。

○　教師のファシリテーターとしての役割を明確にする。

○　教科の特性に応じた教科別スタイルをつくるために、教科ごとに一実践行い、現「南中スタイル」に、教科別の授業スタイルを加える。

年度初めの教科部会で、南中プランに合った“重点”目標を１つか２つ考えてもらう。

（５）各教科の重点目標

教　　科	重　　点　　目　　標
国　　語	・主体的に他者と関わり、言語活動を通して考えを広げ、深める生徒の育成を図る。 ・漢字・語彙・言葉や文法の知識、文章をよどみなく音読する力など、基礎的な言語能力を高める。 ・文章の要旨を的確に読み取り、話したり、書いたりして伝え合う力を養う。 ・基礎的な言語能力をもとに、学校図書館の利用を促進し読解力を養う。
社　　会	・基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、意見の共有や協働をしながら課題に取り組む活動の中で意欲的に学び合いに参加できる生徒の育成を図る。持続可能な社会の形成者としての自覚をもち、多様な視点から社会的事象に向き合い問題解　決に取り組む生徒の育成を図る。
数　　学	・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感できるようにするとともに、基礎的・基本的な内容を活用して、主体的に仲間と協力し、問題解決に取り組む生徒の育成を図る。

理　　科	・学習と日常生活や社会とを関連付けて、科学的なものの見方・考え方を身に付け、主体的に取り組むことのできる生徒を育成する。
音　　楽	・表現や鑑賞活動を通して、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を捉え自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関わらせて考えることができる生徒の育成を図る。
美　　術	・表現及び鑑賞活動を通して、感性を育み、造形的創造活動を通して、美術を愛好する豊かな情操を育てる。
保 健 体 育	・主体的に運動の楽しさを味わうことのできる生徒を育成する。 ・学びに向かう力と他者に伝える力の育成を図る。
技術 ・ 家庭	・生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成する。
英　　語	・社会的な話題や自分の興味・関心があることについて、簡単な語句や文を用いて表現し、発表したり伝え合ったりする能力を養う。 ・日常的な話題や社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。

（６）　実施計画

番号	月日(曜日)	行事	内容
１	４／　２（火）	職員会議	研究主題及び研究の構想・年間計画
２	４／　４（火）	現職教育	教科部会（評価方法，研究授業の単元と授業者決定）
３	５／　９（木）	現職教育	AED 講習会
４	５／２０（月）	現職教育	教科部会（研究授業に向けて）
５	６／　４（火）	現職教育	教科別指導案検討会①
６	６／１７（月）	現職教育	教科別指導案検討会②
７	９／３０（月）	現職教育	教科部会（研究授業に向けて）
８	１２／１６（月）	現職教育	分掌の反省
９	１／２０（月）	現職教育	次年度に向けて
１０	２／２０（月）	現職教育	南中プランの検討・作成

※教科ごとに研究授業を行い、教科部会を開いて協議する。